「平和と人権」市民ネットワーク情報　N020-2

事務局発行(℡ 0557-45-1182)　http://peaceito.moo.jp　　2020.2/14

1/25「総会＆意見交換会」を終えて

参加者は市議の石島さんを含め 23 人でした。学習会と二本立てだったので、全体に時間が窮屈になりました。内容的にはどうだったでしょうか。F さんから、ネットワークとアクションは一本化したらどうか、という意見が出ました。F さんは、署名活動とかやっても参加者が少ない、なぜ？というもどかしさもあるようです。確かに「9 の日行動」の参加者は増えませんが、それは二つの会が並立しているからではないと思います。宇佐美に住んでいた T さん夫妻が高齢になって小田原の子どもさんの家に引っ越しました。ネットワークの賛同者です。昨日、二人の名前を書いた新署名用紙が届きました。署名活動ができなくても、こういう形で思いを表わすこともできます。ネットワークが人をつなぐ役をはたしていることを感じました。

0 さんから、改憲賛成の人を交えて、なぜ賛成なのか、またなぜ反対なのか、学習会を持ったらどうかという提案をいただきました。面白そうですが、どなたにアプローチしたらいいでしょうか。「アクション」の企画となると、準備から運営までなかなか大変です。小林さんに「地域サークルづくり」を報告をしてもらいました。豊富な内容を短い時間に圧縮して話してもらいました。イヌ友達や平和委員会など共通の核(根っこ)がない所で、果たして学習と行動の拠点づくりが可能か、もっと論議したいところでした。4～5 名に分かれてグループで話し合いました。短い時間でしたが、自分の思いや考えを述べる機会となりました。交流の場にもなりました。早速行動スケジュールが決まったところもありました。小林さんが最後にそれぞれのグループの話し合いをコメントし、評価してくれたのも良かったです。窮屈な時間設定にもかかわらず、中身の濃い会になったと思います。

(文責　三好康昭)

【城ヶ崎サークルの活動について】　小林義明

城ケ崎サークルの世話人、小林義明です。まず、**第一の柱=「城ケ崎サークルが生まれ、活動を続けてこられた要因は何か」**についてお話します。その前に、サークルとは何かを触れ

ておきます。

生きがい・健康・暮らし・楽しみにかかわる市民のサークルを、一括して「暮らしの共同体」と呼んでおきましょう。これに対して、自由と民主主義の社会をめざす政治・経済・文化にかかわるサークルがあります。城ケ崎サークルなどは、平和委員会という全国組織の一端を担う地域サークルです。これらを「市民の共同体」と呼ぶことにします。この二つの共同体、すなわち「暮らしの共同体」と「市民の共同体」には、一つの共通点があります。それは「多様性を認め合う」ことです。その点で「考え方や目標、政策を同じくし、きちんとした規約を持っている政党」という組織とは区別されます。

次に、城ケ崎サークルが生まれたきっかけとその後の歩みについてお話します。

2012 年 3 月、「世の中の動きについて勉強するサークルを作りませんか」と呼びかけたところ、8 人が集まりました。その中の 3 人が何となく世話役のような格好になりました。その後はっきりと 5 人の世話役が決まりました。代表は決めず、月例会、ニュース発行（30 枚配布）会計が決まりました。5 人の世話役がいると、7~10 人ぐらいの人を集めるのはそう骨の折れる仕事ではなかったような気がします。

それでは、**第Ⅱの柱、他の地区で地域サークルを立ち上げるために何が必要か、**についてお話します。その前に、ちょっと復習します。最初に私は、地域サークルは「暮らしの共同体」と「市民の共同体」に分けられる、と申しました。わかりやすく言えば「暮らしのサークル」と「市民サークル」です。その中の「暮らしのサークル」について考えてみますと、今日、新しい問題が出てきているように思うのです。それは、社会的弱者といわれるお年寄りや子供たち、障害者などの暮らしの問題です。これらの人たちに寄り添って生きる「暮らしの地域サークル」が必要になっていると思います。

城ケ崎サークルのサブタイトルは、「暮らしサポート」です。社会的な出来事についての学習という機能と、日常的な「暮らしの共同体」という機能が合体した「地域サークル」であることが特徴だと言えるかもしれません。

次に、サークルの作り方と運営についてお話します。

１．サークルを作るには、次の 4 つの要素が必要です。

①目的がある…学習・楽しみ・暮らしの助け合い

②人…指導者やリーダー、世話人…最低 3 人ぐらいはほしい

③物…集まる場所や道具（例えば楽器）など

④金…運営費、連絡、広報費、謝礼

２．サークルの運営―三つのポイント―

ａ．グループをつくる

「3 人寄れば文殊の知恵」と言います。2 人では、なれ合いが生じてものを見る目が曇ります。3 人集まって、初めて「集団」というものが成立します。いろいろな角度からものを見る客観性が生まれます。いい知恵も浮かんでくるというものです。これがサークルの基本的な条件です。小難しく考える必要はありません。3 人集まったら、名前を付けてサークルとして出発すればよいと思います。

ｂ．リーダー

初めからリーダーがいれば、問題はありません。しかし、リーダーはサークルの活動の中で育つものです。「真珠はゴミのような核があって、初めて美しい玉に成長する」と言われる通りです。いろいろな特長を持ったリーダー

がそろっているに越したことはありません。サークルの活動は厚みを増し、楽しみが生まれていくに違いありません。

ｃ．コミュニケーション

話し合いのテーマが決まると、それぞれの問題について「話題提供者」を決め、報告や話のきっかけを作ってサークルで話し合います。サークルでは「話し合う」ことがとても大事です。人間は、言葉で考えます。1 人で考えるときには、頭の中で「独り言」をして考えます。2 人の場合は、「対話」といいます。一問一答や国会の質疑応答なども対話です。3 人以上で考えるときが「話し合い」です。話し合うと言っても、それぞれが自由に話すだけでなく、**「話がかみ合うようにする」ことが大切です。**そのためには、いまの意見に「賛成」、あるいは「反対」、「付け加え」、「別の観点から」などと、絡み合って討論が進むようにすると真実により近づくことができます。大事なことは、話がかみ合って合意形成ができることだと思います。その際、司会者の進め方が重要になります。

３．次にサークル運営の実際についてお話します。

城ケ崎サークルは、毎月 1 回開かれます（8 月はお休み）。月の第 2 水曜日、2；00~4；00 まで。時間はきっちり守ります。新しい人が参加した場合は、簡単に自己紹介を行ってから会を始めます。最初に話題提供。報告者が 20 分~30 分ぐらい話します。話し合いは、司会者が進行します。司会は、世話人が受け持ちます。1 時間経ったころ、飲み物とケーキを注文します。コーヒータイムです。20 分ぐらいのコーヒータイムが終わると、後半 30 分ぐらいの話し合いを続行します。そして、会が終わる 5 分ぐらい前に、次回の月例会の日時やテーマを確認して４時には散会するようにしています。会のニュースは、遅くも１週間前には発行します。配布するのは今のところ 30 部ほど。しかし、配っただけでは人は集まりません。一声かけることがとても大事なことです。これがなかなかできないのが悩みどころです。

城ケ崎サークルの親元である伊東平和委員会には、総会に出席して活動を報告します。平和行進などにも参加します。ポスティングや署名行動にも参加しますが、あまり積極的ではありません。やはり、世の中の出来事を学習するのが一番のサークル活動になっているからです。

最後に、私から一つの提案があります。

私たちはこれからサークルを作ろうというのですから、いわば最初の段階です。サークルは、「人の輪」という意味です。人と人の結びつきや人の集まりにはサークルの根っこがあります。この中に人々の要求や人が結びついている意味があります。楽しさや苦しさ、自分の生活や世の中を変えなければという思いが込められています。それらの共通点で声を掛け合えば、その根っこはサークルに成長します。これがサークルの出発点です。皆さん、それぞれのところで「地域サークル」を立ち上げ、「市民ネット」や「市民アクション」を通じてそれらの経験を交流し、広げていこうではありませんか。以上で私の報告を終わります。

◆グループ討議－小林さんの提起を受けて◆

A グループ

既にサークルを作っていたり、あるいは幾つかのサークルに参加していたりしているためこの 4 人が集まったところで、新たに何かサークルを作るのは無理だ(笑)、という結論から始まりました。そこで、話し合いは各サークルが抱えている問題に集中し、さまざまな問題がちょっと話しただけでたくさん出てきました。一つは知らない人につながりを求め、つながりを作る難しさ。参加者への連絡方法、政治の問題に興味をもってもらうこと。

趣味のサークルなどで仲良しになっても、政治の話は嫌だという人が居るので、そういう場で、政治の話はできない。そういった時に、政治の話題を続けることは困難だ、ということなどが話しあわれました。

司会

城ケ崎サークルの場合を申し上げると、必ずしも政治だけではないし、それぞれがいろんな問題について話を出す。(政治のことが出ても)「そうか俺とはだいぶ違う」と声に出さなくてもいいわけですよ。講師の役を与えられた人は勉強してくるわけです。弁証法ではないですけど、正反があれば合の大きなものができあがるような気がしている。だから続いていると今思うんです。

B グループ

それぞれの思いと近況と、それぞれが属するサークルというか地域のつながりを紹介しあいました。私でいうと、地域というより労働組合でのつながりがありますので、その組織内でのサークルづくりをぜひやりたい。動員とかくじ引きで上がってくる集まりもそれなりに大事なんですけど、日常的にいろんなことを、多方面から、地方自治のことや仕事を話し合えるサークルが必要。そこから次世代を作っていきたい、という思いがある。O さんは市の体操サークルで健康づくりを通してつながっている人たちとコミュニケーションが取れ始めている。暮らしの助け合いという観点では町内会でのつながりが大事。空き家が増えて、生い茂って邪魔になっている木々をどうするか話合っているけれど、それをどうやって広げていくかという話をした。K さんの社会科サークルの取り組みでは、若い教員が参加して活発な議論が交わされ、それぞれの授業に活かされている。そこから署名やイベントへの参加へ広がっている。日常的な暮らしの助け合いと社会的な出来事についての学習が合体した地域サークルというのが今後の課題だと思いました。

司会

ありがとうございました。ごく短時間のうちによくそこまでまとめられました(笑)。これから先の発展が期待できそうな気がしました。

C グループ

ここのグループは城ケ崎と伊豆高原です。最初に T さんから城ケ崎サークルについて補足された。城ケ崎サークルでは「こんなことを聞いたら恥ずかしい」とか全く気にすることがなく、自由に話し合いができることが非常に良い所だ、と。あと、城ケ崎には市民連(「市民連合をめざす伊東の会」)というもっと政治的で、活動する組織がある。それを署名活動なんかの拠点にしたらどうかという意見が出ました。伊豆高原ではいろいろなことをそれぞれがやっているんですけど、月一回行動日を決めてやっていこうかな、と。今考えているのは第二火曜日の午後、僕のところに集まっていただいてそ

こから出撃して署名行動をやる。雨が降ったら勉強会にしてもいい。言ってみれば市民アクション@伊豆高原というものを作っていきたいな、と話しをまとめました。

司会

早くも芽が出てきて飛躍が期待できそうな話でした。ありがとうございました。

D グループ

地域は宇佐美とか岡とか荻とかバラバラです。城ケ崎サークルの活動としてすごいと思うのは、平和委員会の城ケ崎サークルということです。広い伊東の中で、ある地域に平和委員会のサークルをつくって、そこで平和の問題とかいろいろな社会の問題を勉強していくのは意義がある。こういうのがもうちょっと広がれば、もっともっと伊東の中に平和委員会を生かしていけるんじゃないか。わたしたち団塊の世代は父親、母親に戦争体験があるけど、今の子どもたちにどうそれ(戦争体験)を伝えていくかを考えていかなくてはいけない、という話しをしました。あと宇佐美とか伊豆高原に大きな歌声の仲間がいる。居場所であり見守りにもなっている。その発展も大事なのではないか、という意見も出ました。対島地域にはお年寄りを中心としたふるさと創生会が組織されているけど、小室地域では子どもの貧困が問題となる中で、子どもを含めた地域の福祉的な会合をやっていきたい、という話が出ました。

司会

ありがとうございました。2 時間半にわたって中身の濃い総会になったと思います。

小林さん(コメント)

A グループの中にはすでにサークルがある、ビデオをみるサークルが。新しく作ろうと思わず、できているものをどうやって活かそうか、ということでしょうね。B グループの組合の中にサークルを作るというのはすごく大事ですね。職場の悩みというのが必ずあるハズ。教員も同じですよね。今の教育現場は一人一人の先生が孤立しがちになっているわけですから。そこをサークルでつなぐというのが非常に重要です。町内の人の集まりでも、「今度食事会しようよ」と不定期にやり始めていったらだんだん組織的になる。その芽をどうやって伸ばそうか、というとき、三人寄れば文殊の知恵です、相談すれば必ず進むと思います。C グループの月一回やろうというのはすごく大事なとこだと思う。市民アクションというのは憲法改悪反対の署名運動をやる団体ですから。ただ、それが行動主義になってはいけない、と僕は思っている。署名集めの後、どういう話が聞けたのか、そこの話し合いをしなきゃいけない。「何筆集まりました」という話だけなく。いろんな反応や考えの違う人が出たわけでしょう、そういうのを共有しなければ。それが発展するポイントだと思います。D グループから出た話ですが、宇佐美なんかにある既成のサークルを大事にしなきゃいけない。年金者組合には 9 つのサークルがあって発展している。新婦人には小組がある。そこも発展している。既成の組織にもサークルの良い所がたくさんある。私も四つのサークルに入っているんですが、なかなか面白い。考え方の違う人や政治の話はしない、という雰囲気があります。ただ一点、俳句を作るというところで一致している。これがサークルの基本だと思います。

司会

既存のものにどう肉付けをして盛り上げていくか、三人集まって知恵を出し合って発展さ

せていく、というお話しだったかと思います。最後に伊藤さんから。

伊藤

今日は短い時間でしたが、皆さんいろんな意見を出されて非常に良かったと思います。今年一年がまた正念場になりそうです。安倍首相が執念を燃やしているし、維新の会なんかけしかけるし、厳しい状況になっている気はします。

おわり

安保条約と地位協定の学習会

- 2 月 27 日(木)14:00～15:30
- 「ふらっとハウス『ポレポレ』」
  (伊東市松川町 5-29)(中央商店街通り)
- BS プレミアム:アナザーストーリー
  「日米地位協定の波紋」(60 分)視聴

連絡先:戸田　斉(☎ 51-0563)
三好康昭(☎ 45-1182)

メディア視聴会の案内

日時：2 月 25 日（火）10～12 時
2 月 28 日（金）14～17 時
テーマ：(両日とも) 消費税とお金の話
場所：八幡野コミセン 3F 小会議室
（会場費は割り勘で）
（伊東市八幡野 1189-172 Tel.53-1177）
連絡先:大久保伸子 080-3170-7859

「伊東市民アクション」通信２月号　No.24

改憲発議止める
「新署名」での行動が始まっています

２月９日１４時に「ふらっとハウス・ポレポレ」に集まりました。宇佐美からの仲間も加わり、７名で西小学校の周辺を戸別訪問しました。身内や知り合いを頼りにトントン拍子に集める組や、「北朝鮮や中国に攻められたらどうするんだ！」と食って掛かられる組…、男の人より女の人の方が反応が良いようです。違う意見の人の話を聞くのも面白いという感想もありました。集めた署名数は２９筆でした。

真ん中に座っているのが稲葉さん

２月の９の日署名行動に参加して

稲葉芳子

若い人でこちらの話を聞いてくれ、よく理解してくれる人、政治の話はダメ・面倒と言わんばかりの人、年配の奥さんは、「安倍は日本をダメにする」と言って、旦那さんにも署名を勧めたり、上にも家があると教えてくれました。70 代の男性は「働いても働いても税金をいっぱい持って行かれる」と嘆きながら、自衛隊は日本を守るから、といって署名しませんでした。知らないところに行くと、そこに住んでいる人たちの様子がよくわかります。もっと宣伝し、正確なことを知らせなければ安倍の思うつぼだ、多くの人がチラシを撒いたりすることが一番大事だと思いました。

来月は宇佐美地域で！
3月の「9の日」署名行動
3月9日(月)午後2時～
「宇佐美コミセン」集合

市民アクション@**伊豆高原**でも！
独自の**署名行動**毎月第二火曜の午後ですが…
2月は25日(火)午後2時から行います
「伊藤廣光さん宅」集合　(TEL53-6303)